

吉野おげんきかい（鹿児島市）

発表者：永山恵子氏

皆さん、こんにちは。吉野おげんきかい事務局長の永山です。

吉野おげんきかいは、会長以下ほとんどが、第3のステージを地域に貢献したいとの熱い思いをお持ちの方々の集まりです。

今日はこのような方々の活動を評価していただき、御礼を申し上げます。

さて、私どもの活動体は、吉野全域及びその周辺地域を活動範囲としております。桜島がやさしい稜線で臨める吉野台地ですが、区画整理事業が進み、鹿児島市のベッドタウンとして、また災害の少ない街として、若い世代が移り住み、人口が増加し、子供たちも増えて学校もマンモス化傾向にある地域です。

それでは、吉野おげんきかいの立ち上げから紹介をいたします。

私は、平成2年に鹿児島に移り住み、終の住みかとなるだろうこの地をもっと知りたいと、平成5年から地域情報紙の発行を始めました。主婦が始めたことでしたから、家の中にいたのでは、情報は得られません。そこで、地域のボランティアの役を受けるようになりました。もちろん、情報紙には吉野交番の情報も毎回掲載をしました。地域安全モニターや少年補導ボランティアの役を受け、吉野交番に足を運ぶ機会も増え、交番の様子も知ることになりました。

当時、交番の管轄内は人口36,000人余りで、9人の署員が勤務し、その頃からも交通事故の発生件数は市内でも多いことから、事故処理も多く、また、隣りの車がうちの前にとまっているとか、猫が道路に死んでいるとかなどローカルの電話も交番署員の対応でした。特に、高齢者からの「うちの門のところに誰かいます。」などという認知症の訴えにも署員は対応





し、このような忙しい交番をみていると、私たち地域人にもなにかできることがあるはず、と思うようになりました。

そして、10年続けた情報紙の発行をやめ、NPO 法人の立ち上げの準備期間に、吉野には空き巣が多い！との中央署からの情報に、NPO 活動のなかに地域の安心安全の活動は必須であると、地域の組織体に声をかけ、半年かけて立ち上げの準備をしました。

ただこのような活動には、ボランティアの活動団体だけではなく、地域事業所も参加をしていただくべきと、さらに行政機関との連携も必要であると、組織の構成図も作成しました。

「あなたの空いた時間を提供して地域貢献を！」と呼びかけ、『地域サポートよしのねぎぼうず』が事務局を担当。活動の参加者は、地域の皆さん。会長には事業所の方をお願いしました。

平成17年4月NPO法人の立ち上げとともに、「吉野おげんきかい」は、設立に至りました。設立総会には、中央署生活安全課や鹿児島市のできたばかりの安心安全課の課長さんにもご出席いただきました。行政に安心安全課が設置されたことは、私たちの活動に拍車をかけるものでした。

活動範囲は、吉野地域及びその周辺地域としました。地域住民への意識啓発を図り、自主防犯意識を育てるということは、地域のコミュニティをさらに形成することになり、ひいては、子供たちや高齢者への声かけ・見守りなど、地域福祉にもつながります。それは、「みんなで地域を守っていこう・安心、安全はみんなで作っていくんだよ」という、風、風土を作り出していくという文化を築いていくことになります。

会員は登録制とし、年間1,000円の会費を運営費として頂き、事業者は協力会員として3,000円の拠出を頂き、さらに、活動には参加しないけれど支援します。という事業所には、特別協力会員として5,000円のご支援を得ています。

立ち上げた頃の60歳代の会員は、活動も10年続けますと、70歳代になりました。

ただ、5年ほど前からは、警察OBの方々にも参加をいただき、今では強力な活動陣になっています。

通例の活動は、月4回徒歩パト隊と青パト隊を組み合わせ、2か月に1回パトロール表を作成し、隊員に送付しています。青パト車には、鹿児島市のガソリン代の補助もあることから、年間52回のパトロールを編成しています。



夏休み前の1学期終業式の日には、他団体にも呼びかけ、吉野地域の2つの中学校で、非行防止活動を行っています。今年も46名ほどの参加者があり、のぼり旗を持ち子供たちに一枚ずつチラシを配りました。



この活動は、5年前に中学校が荒れていた時に自分たちに何かできないものかと学校側に申し出て、時間をとっていただき、実施をしました。15分間という短い時間ですが、子供たちには「こんなにたくさんの人々が、あなた方を見守っていますよ」というアピール効果は、十分にあったようです。



夏休み以降、学校の状況が変わったとのことで、その後も毎年続けています。夏休みの終わりには、2学期に向けて、吉野地域小・中学校の情報交換会を開催しています。懇親会を兼ねますが、学校の様子などを2つの中学校と4つの小学校に参加をいただき、各校からの現状をお話しいただいて、活動する人々が情報を分かち合っています。今年で10回目を迎えました。

12月の第2土曜日に、年末年始合同パトロールを開催しています。犯罪者は一カ所にとどまらないので、地域の防犯団体組織が共通意識を持つことが必要と、吉野地域の活動団体に呼びかけ、研修時間を設け、地域安心安全宣言を唱和して、地域への普及活動に出掛けるプログラムにしています。大型店舗の前でのチラシ配布や青パト隊でのパトロール活動を行います。昨年は100名が集いました。

2月には、吉野地域の保育園などに呼びかけ、4月から小学校に通う年長さんに、よしのっ子安全教室と銘打って、「いかのおすし」に関する防犯や交通安全教室を行っています。保育園も地域の中で交流の機会はないとのことで、地域の新たなコミュニティになっています。



さらに、私たちの吉野地域には吉野自動車学校があり、大いに地域貢献をいただいております。



す。高齢者や若者の交通安全教室、飲酒運転体験教室など、自動車学校を活用しての交通安全に関する普及活動は、新鮮な安全意識を育んでいます。

豊かな安心安全の地域環境を築くには、常に情報の共有とネットワークが必要です。また、会員のモチベーションを維持していくことは、工夫も必要となります。

活動を始めて11年になりました。現在は、60歳以上の活動会員は、40名ほどです。みんな地域の安全は、自分たちの手で守るという意識の高い方々ばかりです。何も無い中に、パトロールを日々継続していくことは、とても難儀なことですが、使命感をもったシルバーパワーは、常に地域に安全な環境をもたらしています。

自分のできることをできる時間に提供して、使命感が若さを保つ秘訣であることを共有しながら、今年度交代された野角会長さんを中心に仲間とともに活動を今後も続けてまいります。